

# ことり新聞

March  
2024.3.9  
Vol.130



## 伊藤 看護部長

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言いますが、あっ(-\_-;)という間に2月が終わり、2023年度最終月となりました。皆さんにとってこの1年はどのような年だったでしょうか。今年度を振り返り、新たな成長を目指して2024年度の目標を立てていきましょう。

法人内の人事は、今後に向けて動き出しました。まずは、管理者の人事交流が始まり、千里中央病院も師長さんが1年間の出向となります。そして5名のスタッフが、協立記念病院へ6ヵ月の応援出向、2名が急性期へと旅立っていきました。院内異動も少しかけていただきました。

環境の変化は私たちにとってストレスになります。緊張と不安、悩み考えることが多くなるかもしれません。しかし、一方でこの経験が、**精神力の強化・人間関係の深化・認識力の向上・新たな視点の獲得・達成感・より前向きな人生観**などその人の成長をもたらしてくれると思っています。人それぞれ感じ方は違うと思いますが、お互いを承認し、助け合い、これからも千里中央病院の**チーム力**を高めていきましょう！

※今月から看護補助者アルバイトに留学生（インドネシア）8名が入っています。どうぞよろしくお願いいたします。



## 3月研修

- 6日 介護職ポジショニングの実践
- 7日 難病看護師症例報告会
- 9日 法人新人振り返り研修
- 12日 排泄ケアスペシャリスト認定  
実践報告会
- 15日 プリセプターフォローアップ
- 16日 法人次年度プリセプター研修

## 3月行事

- 2/27～7日 梅花大学実習
- 8日 インターンシップ受け入れ
- 14日 ボランティア総会
- 18～22日 入職前研修



## 介護職実践報告会への参加

西5階 介護福祉士



2月14日に開催された実践報告会の研修は、法人内で初の試みで各施設や病院での取り組みやアピールポイントをまとめ発表の場としました。千里中央病院は、「排泄ケアスペシャリスト」を紹介しました。

様々な発表がある中で感銘を受けたのが、外国人の方が自身の想いを文章化し伝えていた事です。『自分たちはもっとたくさんの経験やスキルアップをしたい』そう彼らが思っているのに現場では、外国人の方だからこれはやめておこう・別の業務をしてもらおう となりがちでした。日本語での意思疎通が難しく、業務の進捗確認も大変な事もありました。その中で協和会病院では業務内容のチェックリストを日本語と母国語で作成し、状況に応じて外国人の職員が各自で業務が遂行できるよう工夫がなされていました。今後は法人の介護教育委員会でブラッシュアップされ現場で活用されるそうです。



一人一人の個性や感情を大事にし、そういったコミュニケーションツールも利用しながら彼らの努力や頑張りたい気持ちを尊重し、今後も協働していける職場環境作りをしていきたいと思いました。

## 老健施設へのグローバル研修

東5階 介護福祉士リーダー

昨年8月より半年間、介護老人保健施設ウエルハウス協和へグローバル研修に行ってきました。千里中央病院で13年看護補助として働き、初めて施設の介護士として働くことにすごく不安がありましたが、その不安は半年後楽しさ・やりがいに変っていました。病院ではあまり見ない記録を見る、入力することによって利用者の状態を把握し、介護士が身体抑制などのカンファレンスを主体で行い、日々更新していくという責任が生まれ、そういったことがやりがいに繋がりました。



常日頃私が一番大切だと思っていることは、笑顔でコミュニケーションを図ることです。施設では利用者と接する時間が多く、たくさんコミュニケーションを図ることで、人間関係・信頼関係を築くことができ、改めてコミュニケーションの重要性を感じました。これからも病院・施設関係なく、そのことを忘れずに自分ができることを精一杯やっています。



もし、老健について興味があればいつでも聞いてください。

## 祝！ 野口 看護次長 認定看護管理者審査合格

2022年9月～11月認定看護管理者教育課程サードレベルを受講され、2023年10月に認定看護管理者認定審査を受けられ、みごと12月に審査に合格されました。



1月 新規褥瘡発生 5人

(2月褥瘡予防対策委員会より)